

号外

新潟日報

2011年(平成23年)3月12日(土曜日)

発行所 新潟日報社 購読は0120-0840-20
〒950-1189 新潟市西区善久772-2 www.niigata-nippo.co.jp

詳しくは新潟日報で

福島原発 炉心溶融



12日午前、福島県大熊町、双葉町（時事通信社チャーチー機より）
地震により被害を受けた東京電力福島第1原子力発電所。1号機は右端

第1号機 深刻な事態

放射性物質を検出

経済産業省原子力安全・保安院は12日、東日本大震災の影響で自動停止した福島第1原発1号機の周辺で、放射性物質のセシウムが検出されたと発表した。保安院幹部は「炉心の燃料が溶け出しているとみてよい」と、炉心溶融が起きたことを明らかにした。原子炉の冷却が十分できなかつたのが原因で、原発の安全にとって極めて深刻な事態。外部への放射性物質漏えい確認は初。

また正門近くの放射線量の数値が通常の70倍以上、1号機の中央制御室で通常の約千倍に上昇した。

原子炉格納容器内の気圧が高まり、容器が耐えられずに破損するのを防ぐため、保安院は第1原発の1、2号機について、格納容器内の蒸気を外部に放出するよう東電に命令した。原子力災害対策特別措置法に基づく措置命令。

同日朝、住民避難の範囲は第1原発の半径3キロから

続くため起きる。想定され

ている事故の中でも最悪の事態。

1979年の米国ド

原発事故で起きた。

炉心溶融(メルトダウン)が発生しても半径3キロ以内に避難、3～10キロの範囲に屋内退避の指示が出された。

原子炉の温度が上がり、燃料棒が溶けて破損する事故。冷却水が失われて炉心の水位が下がり、燃料棒が露出した場合、燃料棒中の放射性物質の崩壊が除去できず、温度上昇